

挑戦するまち神戸のスタートアップ支援

神戸市企画調整局 医療・新産業本部 新産業課長 武田 卓

1. ゼロからビジネスをスタートさせる土壌

神戸には古くから時代の先端を行く重厚長大産業が根付き、阪神・淡路大震災後は復興プロジェクトとして新たに「神戸医療産業都市」を掲げて多くの関連企業が集積し、国内最大級のバイオメディカルクラスターにまで発展している。また、多彩なものづくりの中小企業や国内屈指の大学数も誇っている。

しかし、新型コロナウイルスの発現同様、一步先の未来でさえ予測が難しい時代においては、企業や大学の集積だけでなく、多種多様なあらゆる領域の人がコラボレーションし、絶えず新しい価値を生み出していくことが求められている。

神戸市では、歴史的に培ってきた国際性と、オープンマインドな気風とを掛け合わせ、多様な産業が活発に融合していくためのオープンイノベーションを積極的にすすめて、新たな事業を生み出し、にぎわいと活力のある街であり続けるため、また、次代を担う若者に選ばれる魅力的な都市にしていくために、2016年より本格的にスター

トアップの支援や育成に力を入れている。

2. 全国から注目を集める神戸市初のスタートアップ支援

500 Global[※]との連携

いち早く目を付けたのは、世界で注目されるシリコンバレーの有力ベンチャーキャピタル「500 Global」と連携したアクセラレーションプログラム（起業家育成プログラム）だ。今でこそ全国で実施される「有力VC×行政」のアクセラレーションプログラムだが、神戸市では5年前から実施しており、これまで88社が参加し、計140億円の資金調達に成功している。今年度からは参加枠を年間100社に増やし、ポテンシャルを持ったより多くのスタートアップに広く500 Globalの成長ノウハウを提供し、参加者の成功可能性を高めるプログラムを実施している。

※500 Startups が500 Globalへ名称変更

Urban Innovation KOBE

また、2017年より「Urban Innovation KOBE」という地域・行政の課題をスタートアップ

のテクノロジーで解決する取り組みを行っている。この取り組みは柔軟な発想や優れた技術力を持つスタートアップと、社会・地域課題を詳しく知る行政職員が協働して最適な解決手法を見出し、サービスとして構築・実証までを目指すことを支援する、日本で初めての取り組みである。

これまでの応募企業総数は200社以上、課題解決率は約89%、継続利用率は54%と驚異的な成功率を誇っている。さらに、技術導入や採択企業が実際に神戸市に拠点を構えるなどの成果もあがっており、「Urban Innovation JAPAN」として同様の取り組みが全国に拡大されている。

これらの取り組みの成果もあり、国が策定した「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」の「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」に神戸も大阪・京都と共に選定された。

3. さらになる挑戦へ

一方で、実際にプロジェクトや事業を進めてい

(図1) Global Mentorship Program



(図2) KOBE STARTUP HUB



(図3) ANCHOR KOBE



くと、神戸にまだ足りない部分や課題が見えてきた。スタートアップの支援数やグローバルの支援、起業家・エン지니어の創出、資金面での課題などである。さらなる進化を遂げるため、神戸はこれまでの取り組みを次のステージに上げるフェーズにあり、すでに新しい取り組みを始めている。

オーダーメイド型起業家支援

「Global Mentorship Program」

スタートアップの創出および事業成長の加速を目的とし、起業経験・スタートアップ支援経験を持つコミュニティマネージャーが対象者のニーズに合わせ、国内外で活躍するメンターおよび支援プログラムのマッチングを行う。コミュニティマネージャーには、オーストラリアや日本での起業経験、スタートアップ支援経験の豊富なジョシユ

ア・フラネリー氏等が就任し、メンターには国内外で活躍する起業家や投資家など約50名が賛同している(図1)。

スタートアップのためのポータルサイト

「KOBE STARTUP HUB」

また、神戸市内外の様々な支援情報を集積し、交流を促すことを目的に、ポータルサイト「KOBE STARTUP HUB」を新たに開設した。人・場所・プログラム・金融機関など、様々な資産を可視化し、起業家と支援者が双方向で交流できるSNS機能を備えている(図2)。

ひようご神戸スタートアップファンド

さらに資金面でのサポートとして、2021年3月には、兵庫県や民間企業等と連携し、シード・アーリー期を対象とした飛躍的な成長が見込

まれるスタートアップへの投資を行う「ひようご神戸スタートアップファンド」を設立した。

ANCHOR KOBE

最後に、実際に会って交流できる「場」として、中心街である三宮に「ANCHOR KOBE (アンカー神戸)」を2021年4月に開設。六甲山を一望できる開放的な空間で、産学官連携を基盤とした実践的なプログラムを提供している。

この場から、スタートアップをはじめ、中小企業、大学など業界の垣根を越えたイノベーションを創出していく(図3)。

4. 私たちが目指す姿

私たちが目指すのは、神戸発の「イノベーションエコシステム」を構築すること。

行政や大学、金融機関、地元企業、支援組織等が連携し、起業や社内ベンチャーの創出・育成を進め、成長したベンチャーが地域に還元することを目指している。また、連携を契機としてスタートアップをはじめとする優秀な若者が世界にチャレンジするきっかけを神戸で手に入れ、グローバルに活躍していただくことを目指している。

「神戸に行ったら何かが起こる、新しいことができる」と多くの方に思っていただけの神戸の未来を、これからはスタートアップ施策により築き、日本のスタートアップ業界を盛り上げていきたい。